

7月28日(火)

大豆現地講習会を開催

大豆現地講習会が田中ファーム圃場（綴子地区）で開かれ、生産者や北秋田地域振興局、JA職員など約20人が参加しました。

講習会では、生育概況や病害虫の発生状況などから今後の管理について確認し、活発な意見交換を行いました。

北秋田地域振興局の農業振興普及課の担当者は、今後の天候の見通しから排水管理や病害虫防除について説明。圃場内は降雨が続き多湿条件が続いているため、停滞水が速やかに排水されるよう排水溝同士をつなぐなどして排水路を確保するほか、今後は高温にも注意

し、紫斑病やマメシンクイガなどの病害虫防除の徹底をするよう呼びかけました。



生育状況を確認する生産者

7月30日(木)

小笠原組合長 各事業所であいさつ

30日、本店では業務に先立ち、小笠原隆志組合長が職員へ就任の挨拶を述べました。小笠原組合長は挨拶の中で、コンプライアンスの遵守と職場の活性化について「地域から必要とされるJAになるにはコンプライアンスの遵守を徹底することが大切。業務においても上司や同僚と協力しながら自主的・意欲的に取り組んでほしい」などと呼びかけました。この日は各事業所で担当職員に挨拶を述べた小笠原組合長。職員も真剣な表情で一つ一つの言葉に強くうなずいていました。



小笠原組合長の言葉に耳を傾ける本店職員

8月4日(火)

少数精鋭 全員野球で勝負

第53回JA秋田野球大会「かづの・北秋田ブロック予選」が大館市の達子森野球場で行われ、当JA、JAかづの、JAあきた北の3チームが出場し、総当たりで試合を行いました。

今年連覇を狙う当JAチームは、20代から50代の幅広い年代で構成。人数も10人とギリギリでしたが、それぞれ持ち味を活かしたプレーで試合を盛り上げました。試合のほうは初戦のJAあきた北に5対7、2試合目のJAかづのに6対7のサヨナラで惜しくも敗れ、県大会出場を逃しました。それでも今大会は、出場したメンバー全員が攻守共に活躍した大会だったと思います。



笑顔でバッターボックスをあとにする職員

8月6日(木)

長期安定収穫に向け栽培管理を学ぶ

県北地区きゅうり生産委員会の「圃場巡視会」がJ Aかづの管内で行われ、県北地区各J A担当職員や生産者（当J A 3名）など20名が参加しました。

巡視会では、養水分管理を自動で行う点滴かん水設備を導入した圃場など2カ所を巡回し、生産者から栽培概要を聞きながら活発な情報交換を行いました。このほか、巡視会では今後の管理について北秋田・鹿角地域振興局の両担当者が、病害虫の発生が多い状況が続いていることを受け、梅雨明けに伴うダニ類や炭そ病など病害虫の増加に注意し、早めの防除をするよう呼びかけました。



点滴かん水設備を導入した圃場を視察する生産者

8月19日(水)

阿仁地区で果樹（りんご）現地講習会を開催

J A秋田たかのす畑作部会果樹班（澤藤 家次男班長）の現地講習会が伏影（阿仁地区）の伊東郷美さん園地で開かれ、生産者やJ Aの担当職員14名が参加しました。

講習会では、北秋田地域振興局・農業普及振興課の職員が講師を務め、生育状況や今後の摘葉時期、病害虫防除などについて確認しました。

7月末時点、北秋田市管内のりんご（つがる・王林・ふじ）は、6月中の細胞分裂が順調に行われたことや7月に十分な降水があったため、肥大状況は平年並みからやや大きめの状況となっています。

今後の管理について担当職員は、高温が続くと発生が懸念されるハダニ類や黒星病等など、発病葉や発病果実を見つけたら直ちに摘み取り、二次感染防止に努めるよう呼びかけました。台風対策についても、落果を防ぐ側枝の枝吊りを行うことや収穫期に入った果実は台風が接近する前に熟度を見極めて収穫するよう呼びかけました。

講習会後には、参加者が園地内の生育状況を確認しながら、高品質なりんご栽培に向けて意見交換を行いました。



青空の下収穫前の管理を学ぶ生産者



りんごの肥大状況を確認する生産者